

授業概要

中国と周辺諸国との国際関係について、古代から近代に至る期間に起きた幾つかの事例を取り上げて講義します。特に、東アジアの一地域としての日本列島と中国との関係に注目し、「日本史」の立場からはしばしば看過または誤認される問題を積極的に取り上げ、日本の歴史を、東アジア史のなかに相対化することを試みます。東洋史に関する基礎的な講義で、入門的な位置付けの授業です。東洋史だけでなく日本史を学ぼうとする学生にも適しています。

授業計画

第1回	序：「東洋」とは何か？
第2回	中華思想：前近代における中国中心の世界観
第3回	冊封体制論：印璽（ハンコ）から見た古代東アジアの国際秩序
第4回	志賀島の金印と、邪馬台（ヤマトイ）国の女王 卑弥呼（ヒミコ）
第5回	倭の五王：なぜオオキミたちは、中国の皇帝の臣下になろうとしたのか？
第6回	遣隋使①：「日、出るところの天子」の国書を見た隋の煬帝の反応と対処
第7回	遣隋使②：小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件について
第8回	高句麗と渤海：朝鮮（韓）民族の政権とする見解と中国の地方政権とする見解との対立
第9回	「北からの蒙古襲来」「もうひとつの蒙古襲来」：元朝軍のサハリン侵攻とアイヌ
第10回	山丹交易：いわゆる「鎖国」の江戸時代の日本と清朝とを、毛皮と絹が結んだ北まわりの交易
第11回	琉球王国：その成立と、島津氏による制圧後の中国との関係
第12回	琉球処分：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島）
第13回	「戦争抛棄二関スル条約」と満洲事変
第14回	内モンゴル東部の近代：日本の「侵略」に対するモンゴル人のまなざし
第15回	「支那事変」/「日華事変」/「日中戦争」をめぐる諸問題：南京大虐殺をめぐる言説、その他。
第16回	筆記試験

到達目標

前近代の中国を中心とする東アジアにおける国際関係に関する基礎的な知識を持つことができるようになり、日本列島の歴史についても、「日本史」の枠組にとらわれることなく、より広い視野から見るようになること、また、近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握し、それらが私たち自身にも重要な問題であるということを理解できるようになること。

履修上の注意

授業への積極的な参加が望まれます。遅刻や途中退席等は、他の履修学生にも迷惑となりますので、やむを得ない事情がある場合は、可能な限り事前に申告してください。

なお、講義の性格上、漢字を読むことができない留学生等には、履修が困難です。

また、本講義を受講する条件はとくになく、東洋史特論Ⅰの履修も必要ありません。

予習復習

高校の日本史・世界史の履修内容に関する基礎知識がありましたら、予習は特に必要ではありません。

復習は、講義の内容を確認する程度に行うことが望まれます。

評価方法

試験 80%と平常点 20%によって評価します。試験は、講義内容から出された複数の問題の中から選択して解答していただきます。点数配分は、設問に対して適切な解答がなされているか（40%）、必要な術語を正しく理解して使用しているか（40%）、論理的に破綻のない文章となっているか（20%）、を基準に採点します。平常点は、集中して講義を聴講しているか、講義の内容をほぼ正確に理解できているか、が基準となります。なお、授業には、出席することが前提です。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前または事後に申し出てください。

テキスト

市販の教科書は使用しません。授業においてプリントを配布します。なお、世界地図帳と世界歴史地図帳（共に高校生の時に用いたものでよい）を持参することが望ましいです。

参考文献等は授業中に適宜紹介します。